

かさねの色目の花あそび No.34

【色目】 青朽葉 <表：経青緯黄 裏：青>

緑味を帯びた朽葉の色を象った色目。つまり、枯れ始めた草木の色合いのイメージか。表の経青緯黄は、縦糸が青色、横糸が黄色で織られた色味のことで、染色の青朽葉より黄色が強いようだ。

花あそびは、左がオンシジュームとイブキ、右はオンシジュームとアイビー。オンシジュームの黄色は南国出自らしいさっぱりしたクリアな黄色なので、経青緯黄といったニュアンスカラーではないが。



かさねの色目の花あそび No.35

【色目】 青丹 <表：青濃気アリ 裏：青淡気アリ>

青丹とは、黛（眉墨）などに使われた青粘土のことで、暗く鈍い黄緑色。「丹」は赤（朱色）なのになぜ？ 江戸中期の『安齊随筆』に「青き土を青丹と云ふは心得られぬ様なれど、…丹は物を色どる物、青土も物を色どる物なる故、丹を転用傍通して青丹と云ふなり」とあり、丹は「土」の意でも使われるとのこと。

奈良にかかる枕言葉「あおによし（青丹よし・青丹吉）」は、奈良が青丹（青土）を産出したことから、また、奈良の都の色彩美（青（緑）と赤で彩られたたくさんの建物）をたたえる意味で使われているようだ。

花あそびは、イブキとアイビーとペリカムを使用。小さくて白い2口付きの花器を2個使い、花器の配置を変えて撮影した。上の「青朽葉」では1個使用している。

